

各種委員会の取り組み



第1種委員会



フットサル委員会



第2種委員会



技術委員会



第4種委員会



審判委員会



キッズ委員会



医学委員会



シニア委員会



【第1種委員会】

1 種委員会の現状と取り組みについて



第1種委員会 委員長 高木 真一

第1種委員会は社会人・大学・高専・専門学校・自治体・自衛隊各関係連盟及び関連委員会のご協力の元、2024 年度の各種事業を終了することが出来ました。

第1種所属各連盟主催の全道大会は、道内各連盟・協会関係者のご尽力と参加選手、チームスタッフの熱意により、どの大会も活気のある有意義な大会となっておりました。全国大会においては、第 59 回全国高等専門学校体育大会サッカー競技兼第 57 回全国高等専門学校サッカー選手権大会にて苫小牧工業高等専門学校が準優勝という輝かしい結果を残すことができました。全国自治体職員サッカー選手権で札幌市役所が 2 回戦進出の成績を収めております。デンソーカップチャレンジサッカーでは北海道選抜チームがプレーオフを勝ち抜き本大会に出場できました。

また、第1種内の各種別においても、全国の強豪との対戦を経験すること競技レベルの向上が認められており、2025 年度は全国上位の成績を収めることを期待しています。

また、種別内のチームから J リーグチームへの入団者も多数おります。

登録チーム数及び全道大会参加チーム数の減少等、第1種を取り巻く環境は厳しさが続いておりますが、2025 年度においても所属各連盟で問題点を共有しながら、サッカーを楽しむ続けを忘れずに競技力及び大会運営能力の向上に向けて努力していきたいと思っております。

【第2種委員会】

2024－2025



第2種委員会 委員長 石尾 浩一

2024 年度よりプリンスリーグ 2 部に相当する、高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ 2024 北海道 FA リーグ(以下 FA リーグ)が開幕した。FA リーグ参加チームには、プリンスリーグ昇格後も戦い続ける力を、FA リーグで培ってほしいというねらいから設立された。2025 年度はプリンスリーグ参加チームが札幌6、道南1、道北1と札幌に集中している半面、FA リーグは札幌1、道南2、道北3、道央1、道東1と 5 ブロックに分散している。広域な北海道において、FA リーグを通してチームや関係者が北海道全体のレベルアップに繋げてほしいと願っている。

年々2 種のチーム数は減少し、2025 年度の高校総体北海道代表は 2 枠から 1 枠となった。また、チーム数の少ない地区は、隣接する地区と予選を統合することとなった。4 種から 3 種と育て上げた選手は、2 種チームがないために活動できない地区も見られている。一方で強豪チームは大型化し、選手が都市部に偏在している。他の都府県とは異なる環境の中で、このような問題と向き合いながらレベルアップを図っていかなければならない。北海道としてどのように進むべきか、今後も模索していく。

【第4種委員会】

子どもたちの笑顔と未来のために



第4種委員会 委員長 尾見 秀樹

このたびの役職改選により、第4種委員長を拝命いたしました。長きにわたり、歴代の委員長をはじめ関係者の皆様が築いてこられた4種年代のサッカーの発展と運営体制や取組をしっかりと引き継いでいきたいと考えております。一方で、子どもたちを取り巻く環境や価値観は時代とともに大きく変化しています。少子化による選手登録数の減少、指導者の働き方改革等、課題も山積みです。これまでの良き伝統を尊重しながら、選手一人ひとりの多様な成長を支える新たな取組や安全・安心な指導環境の整備、指導者や保護者との連携強化とサッカーファミリーの拡大など、現代に寄り添った柔軟な運営を目指してまいります。技術委員会 U12 部会やキッズ委員会、女子委員会等、縦横と繋がりながら、子どもたちの笑顔と未来のために、4種委員会を展開してまいりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

【キッズ委員会】

子供たちのために一緒に汗をかきませんか？



キッズ委員会 委員長 遠藤 祥悦

日頃よりキッズ委員会へのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

2025 年度から「インストラクター」は「チューター」へと名称が変更されました。チューターはキッズリーダー養成講座の講師を担い、受講者ではなく「参加者」として、自らの経験を活かしながらチューターと共に学ぶ形式へと移行しました。さらに、これまでの U6・U8・U10 といったカテゴリー別の区分を撤廃し、誰でも自由に参加・経験を積める形となったことで、保護者、学校・幼稚園・保育園の先生方にもぜひ参加いただければ嬉しいです。

巡回指導にも力を入れており、参加園や園児が増加し、サッカーへの理解も広がってきていることを実感しています。こうした活動を通じて、子供たちが主役となり、大人も一緒にボールを追いかけて楽しめる場を提供できればと考えています。忘れてはいけないことは、指導だけでなく子供たちが安心・安全にサッカーを楽しめることが最も大切です。少子化がますます進んでいますが、このピンチをチャンスに変えて、子供たちにサッカーにかかわって欲しいと思っています。

また、生涯スポーツとして、いつでもどこでもだれとでもサッカーができるような環境を皆さんで作っていきましょう。

よろしくお願いいたします。

【シニア委員会】

シニア種の現状と今後について



シニア委員会 委員長 佐藤 英隆

シニア委員会及び道シニア連盟では、全国大会予選となる真剣勝負の全道大会やサッカーを楽しむ親睦を深める大会など、競技志向に応じて大会の企画・運営を行っており、2024年度は全事業を予定通り実施することができました。特筆事項として、2024年度 JFA 第18回全日本 O-70 サッカー大会で FC70 室蘭が第3位という輝かしい成績を収めました。

シニア種の登録状況は、JFA がシニア種登録を開始した 2000 年に 11 チーム・340 名でスタートしましたが、その後増加の一途をたどり、2024 年度は 132 チーム・2824 名となりました。北海道最高齢選手の伊賀猛氏(90 歳)も現役続行中です。

少子高齢化・人口減少社会に直面しサッカーファミリーの減少も懸念されているなか、シニアカテゴリーは増加の一途をたどり、生涯スポーツとして位置付けられているサッカー界において、シニア世代の果たす役割は大きいと考えます。現在 80 歳代の公式大会がないため、80 歳代及び女子シニアの選手が、自分のカテゴリーでいつまでも楽しんでサッカーができる環境を確保することを目的とした企画を 2025 年度に実施予定です。また、シニア種の普及のためには、様々な理由により一度サッカーから離れている再開者を掘り起こすことが重要と考えていますので、そのための企画も検討していきたいと考えています。

【フットサル委員会】

今までの振り返りと今後の展望



フットサル委員会 委員長 野呂 雅友

2022年度より委員長を務めており、今期で2期目となります。まずは、日頃より大会の主管を担っていただいている15地区FAおよび5地区フットサル連盟、運営役員、審判員の皆様に心より感謝申し上げます。着任後の主な取り組みとして、まず組織体制の再構築に着手しました。15地区FAのフットサル委員長を委員に加えることで、情報の伝達や収集がより円滑になり、各地区の実情に応じた大会主管体制が整備されました。また、技術委員会との連携を強化し、同委員会内に10名体制の「フットサル担当」を設置。現在はクリニックやCライセンス認定講習会を中心に、サッカー指導者との相互理解を図りながら、フットサルの技術的な価値を広める活動を進めています。さらに北海道フットサルリーグでは、ホームチームによる音楽やMC、選手紹介、装飾などの演出を取り入れ、観客に楽しんでいただける大会づくりにも取り組んでいます。2025年度には、エスプラダ北海道様の協力のもと、全日本大学フットサル大会の決勝戦をフリーグ前座試合として開催しました。フリーグ仕様の舞台上で大学生がプレーできたことは大変意義深く、今後もこのような取り組みを継続・発展させていきたいと考えています。今後の展望として、フリーグのスケジュールに応じてU-18大会や北海道フットサルリーグの開催も検討中です。現時点での課題は、SNSなどを活用した情報発信の強化であり、これを重点課題として取り組んでまいります。引き続き、15地区FA・5地区フットサル連盟との連携を大切にしながら、次世代を担う委員の発掘・育成を通じて、スムーズな委員会運営の継承を目指してまいります。

【技術委員会】

世界で活躍する選手の育成



技術委員会 委員長 上田 充士

技術委員会では、選手育成(トレセン)、指導者養成、選手強化(国体)、普及の四位一体の活動に取り組んでいます。皆さんすでにご存じの通り、2022年にJFAは取組の指針として「ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしての Japan'sway」を発表しました。その指針に基づき、様々な取組を北海道各地で展開しています。

一方で、育成にかけられる経費は年々厳しくなり、以前行っていた海外交流や道外遠征なども再開できていない現状があります。日本代表チームが世界で活躍する中で、男子で北海道出身の選手がワールドカップに出場したのは、中学1年生の途中まで北海道にいた城彰二選手(98年フランス大会)のみです。また、女子についても、現在も第一線で活躍する熊谷選手に続く代表選手の輩出が課題と感じております。このような状況ですが、海外で活躍する選手を北海道から輩出するための環境づくりと指導者養成に力を入れて取り組んでいます。

2027年1月16日・17日にはJFAフットボールカンファレンスが札幌コンベンションセンターを会場に開催されることが決定しました。多くの指導者の皆さんと世界の最先端のサッカーを学びながら、北海道から選手が育つ環境づくりに、これからも取り組んでいきたいと思っております。

【審判委員会】

審判委員会の取り組みと今後の展望



審判委員会 委員長 藤井 陽一

審判委員会では、JFAの理念およびミッションを基盤に、公益財団法人北海道サッカー協会の目標である「審判員の養成と質の向上」に資するべく、「強化・育成・指導者・女子・フットサル」の5部会が連携し、各種事業に取り組んでいます。強化部では、実践経験や研修を通じ、将来の1級審判員の育成を推進。育成部は講習会と大会支援を通じ、審判活動の魅力を次世代に伝え、ユース層への働きかけを強化しております。指導者部は資格更新制度の見直しを進め、継続的な学びの機会を提供。女子部は、女性審判員・指導者の育成と登用に尽力し、全国での活躍を支援しています。フットサル部は、通年で活動可能な審判員の育成と、全国リーグに対応できる人材の輩出を目指しております。今後も「フェアで安心・安全な試合環境」の実現に向け、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【医学委員会】

医学委員会の活動と今後



医学委員会 委員長 神谷 智昭

医学委員会ではキッズからシニアまで、選手が身体的・精神的に安全・安心にプレーできるメディカルサポートに取り組んでいます。また、選手だけではなく審判、指導者、観客にもサポートの範囲を広げました。その一つとして J F A と連携してスポーツ救命ライセンス講習会の開催、アンチドーピング教育、栄養指導などを実施しています。今後もさらに活動の場を広げていく予定です。

また北海道から日本代表選手を輩出するために、世界基準でのメディカルサポートを目指しています。世界の最先端を導入すると同時に、北海道から世界に発信するような研究活動も行っています。他の委員会や連盟と共に、北海道におけるサッカーの発展に貢献できればと思います。引き続きご協力のほど、よろしくお願い致します。